

令和7年度 小金井市立小金井第三小学校 授業改善推進プラン

1 授業改善の方針

○学校教育目標の重点目標「考える子ども」の育成に向けて、各教科や単元において、積極的に対話を取り入れた授業変革を行う。児童アンケートから明確になった本校の授業における課題改善を積極的に推進する。特に2学期以降は、協働的な学びを推進し、友達と対話をすることで考えをより深めたり、広げたりできるように研究推進部員を中心に、授業改善を進める。

2 児童の現状分析

(1) 全国学力・学習状況調査

国語	○全国学力・学習状況調査では、本校は全国、東京都の平均正答率を上回っている領域や観点が多い。特に「話すこと聞くこと」については、全国の平均正答率を8ポイント上回っていることから、目的や意図に応じて、伝える内容を検討することができることが分かる。しかし、「書くこと」における文章の構成を考える場面では、東京都の平均正答率を0.5ポイント下回っていることから、文章に表現力に課題があることが分かる。説明的な文章の指導では、文章の構成を考える活動を取り入れ、課題の解決を図っていく。
算数	○全国学力・学習状況調査では、本校は全国の平均正答率を上回っている領域や観点が多いが、東京都の平均正答率を下回っている項目が多い。問題別集計結果を見ると、「図形」の問題が東京都の正答率を5.2ポイント下回っている。台形という形への理解や、図形の面積を式や言葉を用いて記述する力が不足していることに課題がある。まなびポケット内の「デキタス」「navima」などICTを活用した個別最適な学習を行い、定着を図っていく。

(2) 児童・保護者・教職員アンケート

○児童のアンケートでは、「文字を丁寧に書き、作業を丁寧に・粘り強く取り組んだ」に課題が見えた。そのため、低学年のうちから文字の書き方指導や宿題での漢字学習に取り組む時に丁寧に文字を書く習慣を身に付ける指導が必要である。教職員のアンケートでは、「タブレットも活用し、互いに学び合い、考える力を伸ばすように指導すること」に課題があることが見えている。今後はOJTを実施したり、校内研修をしたりすることを通して、必要な場面でのタブレットの使用や、対話的な学習の導入を全教員が行えるようにしていく。

3 各教科等における授業改善の視点

国 語	低学年	○絵本の読み聞かせを通して、物語に対する自分なりの感想をもてるように指導する。また、ペアやグループでの対話を繰り返し行い、話し言葉と書き言葉との関連を身に付けられるようにする。
	中学年	○相手に分かりやすく自分の考えを表現することができるように、文節の使い方や文章構成などを丁寧に指導する。また、対話的活動を通して、要点を意識して相手の話を聞くことができるようにする。
	高学年	○再テストを行ったり、間違えた漢字について個別に指導したりすることで、漢字の定着を図る。問いを見出し、解決の見通しを友達と共有した後、対話を深めるなど、主体的な学習になるように指導する。
社 会	中学年	○正確な地名や固有名詞、用語などが定着できるように、繰り返し練習していくようにする。学習問題に対する必要な資料を提示することで、調べたりまとめたりすることができるようにする。また、授業ごとに内容のまとめを文章でまとめる機会を設ける。都道府県については、4年生の終わりまでに正確な位置と名称を書いたり、親しみをもてたりするようにする。
	高学年	○課題解決につながるような資料等の提示を工夫する。ノートやスクールタクトを選択しながら表現したり、友達と比較したり、事象を関連付けたりしながら対話できるような活動を取り入れたりしながら、多角的、多面的に事象をつかめるように指導する。
算 数	低学年	○授業開始の時間に、繰り返し計算問題に取り組む時間を定期的に設け、基礎基本の定着を図る。個に応じた学習を推進するために、効果的にタブレット型パソコンを用いる。
	中学年	○自分の考えを言葉や式、図などを用いて表す指導を重視し、対話を行うことで児童がよりよい方法がないか考えられるような授業を目指していく。nav

		i m a や東京ベーシック・ドリルを授業や家庭学習の時間等に活用して基礎基本の定着を図る。
	高学年	○児童自ら「問い」をもち、主体的に学習に取り組むことができるよう、授業において教材や問題提示、発問の工夫を行う。個の課題に応じ、つまづきを明確にすることで主体的な学びにつながるよう工夫する。
理 科	中学年	○課題に対しての自分なりの予想や考えを、生活経験や身近な事象を想起しながら、根拠をもって表すことができるようにする。そのために予想→仮説→実験→考察→結論と授業の流れを明確にして、学習内容と身近な事象とのつながりについて振り返りを行う。
	高学年	○事象に対する自分なりの考えをもち、その考えを確かめるための方法と結果を予想することに重点を置き取り組むようにする。自分の考えと実験結果を比べることで考察を導きやすくし、普段の生活で生かせないかを考える時間を設ける。
生 活	低学年	○見る、聞く、触れる、育てる、遊ぶなどの身体を通して直接働きかける場を設定し、楽しさを味わわせる。その活動や体験して考えたことを言葉、絵など多様な方法により表現し、交流できるようにする。
音 楽	低学年	○楽曲の気分を感じ取り、歌い方を工夫する過程で、丁寧な歌い方やきれいな発声、発音に気付かせる。はっきりした発音で歌詞を読むことを指導していく。
	中学年	○楽曲を主体的に表現できるように学びのプロセスを工夫する。一人で演奏する技能を身に付けた後に合唱、合奏する活動を通して、相手の音を聴いて、合わせたり、調整したりする力を身に付けることができるようにする。
	高学年	○楽曲を主体的に表現できるように学びのプロセスを工夫する。一人で演奏する以外にも、ペアやクラス、学年で協力して合唱、合奏することによって、音によるコミュニケーション能力を高める。
図画工作	低学年	○指先や道具の使い方を確認し、工夫して表現できるようにする。 ○作品の鑑賞などでタブレット型パソコンを活用し、共有する。
	中学年	○文字や画像からの知識は不足ないが、生活体験が乏しく、手を使って考え、ものと粘り強く関わる力が弱い。多様な造形体験を通し、ものや人と関わり、色、形、材料のよさを発見し、自ら学びを発展させる力を養う。
	高学年	○主体的に学びを進める力、造形力の個人差が大きい。造形体験を多様に広げ、ものや人、色、形、材料とのかかわり方、よさの発見の仕方を個に応じて促し、学びを自ら発展させる力を伸ばす。
家 庭	高学年	○具体物や動画などの教材提示を工夫し、児童の生活に即した具体的な内容から生活の営みに係る見方・考え方を深められるようにする。 ○技能では個々の課題に応じ、ICT を活用して自ら学びを進めたり、友達と協働したりして、技能の習熟を図ることができるよう工夫する。
体 育	低学年	○運動遊びをする場や練習の仕方などを自分の力に応じて選択することで、運動遊びの行い方を工夫できるようにする。友達や教師等に動作や言葉などで表現する機会をつくり、考えたことを他者に伝えることができるようにする。
	中学年	○体力テストの意識調査より、体力・運動能力の向上について目標を立てずに授業に取り組む児童が多かった。今までは振り返りを重視していたが、今後は、毎時間、個々の取り組み目標を立てさせてから運動に取り組ませ、自分の成果や課題を振り返られるワークシートを作成・活用し、体力向上を目指す。
	高学年	○タブレット型パソコンを活用することで動きのこつを友達と共有したり、手本となる動きを繰り返し見たりすることで基本的な動きについての理解を深める。自分の動きと比べて見出した課題を解決するための方法を考えたり、場を選んだりして積極的に運動に取り組むことができるよう活動を工夫する。
外国語	中学年	○教師や ALT の英語を繰り返し聞かせたり、英語と動作を連動させたりすることで、児童がより英語の音声に慣れ親しむことができるようにする。
	高学年	○音声を中心に授業を組み立て、十分音声に慣れ親しんだうえで、やり取りや発表、書く活動等に取り組ませることで、英語の定着を図る。
道 徳	低学年	○児童の心に響かせる教材提示をするために、場面絵やスライドを活用したり、範読を工夫したりする。対話の時間を取り入れ、様々な考えがあることを認められるようにする。

	中学年	○主題名に沿った発問を意識し、自己の振り返りを行う。タブレット型パソコンでの児童の考えの共有を効果的に取り入れる。
	高学年	○児童が建前ではなく、本音で対話ができるように、人間理解を深める授業づくりに取り組む。そのために、I C T機器を活用した教材提示や人間の心の弱さや葛藤に迫る問い返しをしていく。
総 合	中学年	○他教科との繋がりを意識し、社会的事象への理解を深め、身近な課題として自分事として捉えられるようにする。そのために、学習したことを発表したり、実生活で実践をし、振り返りをしたりするなど授業展開を工夫する。
	高学年	○児童が自分事として考え、調べ学習を進められるような課題を設定する。調べ学習後に誰に何を発表したいのかを明確にし、相手意識をもたせた発表の場を設け、よりよい発表ができるように工夫する。